
80巻2号

2025年4月1日

YAA 天文会報

(4~6月号)

804号

〒226-0016

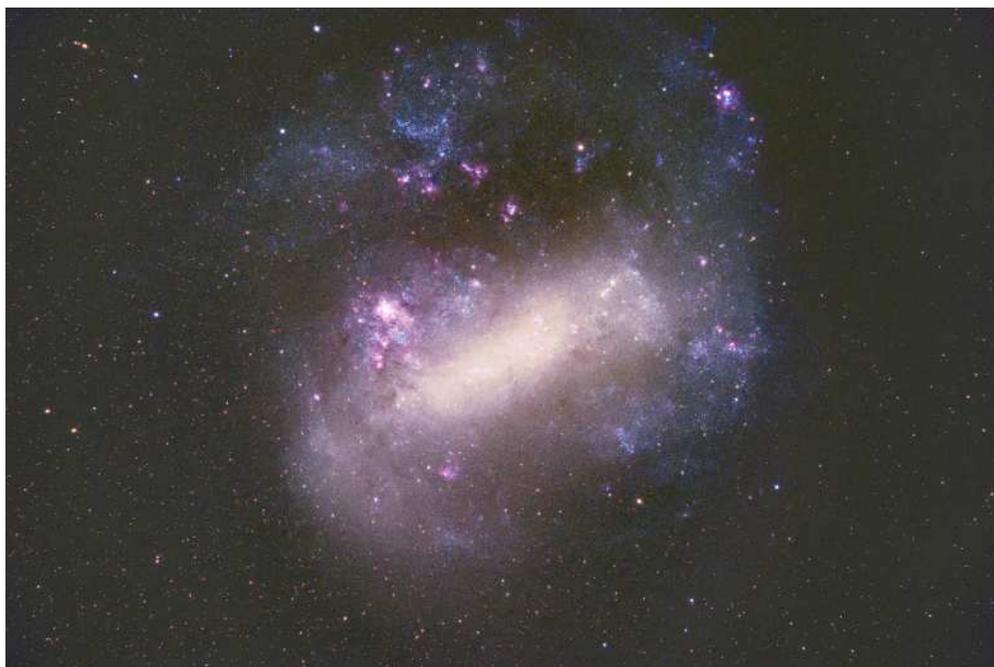
横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



大マゼラン雲

撮影：山形幹夫

観望ガイド

正木

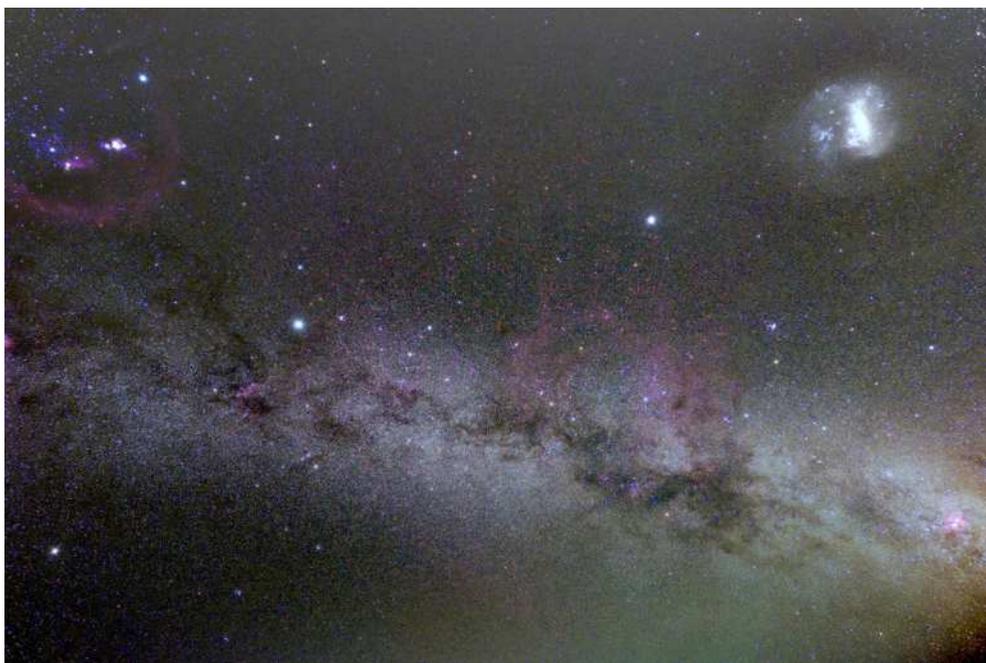
桜の開花の知らせが届き始めました。春分過ぎて日没も遅くなってきて春本番を実感しますが、せっかく晴れても花粉と黄砂で空は霞んでいます。

3月21日に金星が内合となり、日没後の西空が寂しくなりましたが、4月22日に水星が明けの東天で西方最大離角となり、近くに金星と土星も並んでいます。ちょっと南側に離れますが月齢23の月も見えています。27日には金星が最大光輝となり、明るさは-4.8等と圧倒的な明るさで夜明け前の空で輝いています。

5月は大型連休の最中、火星がかに座のM44・プレセペ星団のそばを通過していきます。散開星団であるプレセペ星団はかに座の中心を構成する4つの星に囲まれるところに位置していて、空の暗いところでは肉眼でも見えます。照明などの多い市街地ではちょっと無理ですが、双眼鏡を使うと簡単に見ることができます。この星団は、紀元前から小さな雲のように見えると知られており、1609年にガリレオ・ガリレイが自作の天体望遠鏡で初めて星の大集団であることを発見しました。地球から510光年離れたところにあり、3等級の明るさに見えます。おうし座のプレアデス星団よりも星の密集度が高く、プレアデス星団の星々が青白く見えるのに対し、こちらは黄色からオレンジ色に見える星が多く、それだけ誕生から時間が経過しているということが判ります。また満月の大きさ程度の広がりがある星団なので、望遠鏡で見るのならできるだけ低倍率で見てください。しかし手軽な双眼鏡が一番良いのではと思います。プレセペとはラテン語で「かいば桶」という意味です。星団を囲む4つの星が桶で、その中の餌が星団、南北にある2つの星を餌を食べるロバに見立てたということです。英語ではハチの巣 (Beehive) とも呼びます。

6月、入梅の季節になりますが、今年の梅雨はどうなりますか、甚大な被害が出るようなことのないことを祈ります。金星が1日に西方最大離角、4月の最大光輝から年末にかけて明けの明星として東天で輝きを放ちます。

この3ヵ月間に活動する流星群ですが、こと座群が4月22日の夕方が極大と予想され、23日の未明にかけて出現が期待されています。この流星群は明るい火球を見ることができます。みずがめ座η群は5月6日が極大と予想されています。放射点の位置の関係から観測できるのは明け方の2時間ほどになりますが、放射点の高度が低いところから流れる長い経路の流星が印象的です。またこの時期は、突発的な活動をする流星群、出現数の少ない小さな流星群が多くあります。



上記写真は南緯18°の地で東の地平線から昇って来た状態の冬の銀河です。地平線と平行に画面横としたため北方位は写真左方向になります。写真は20mm広角レンズで撮影していて、かなり広い範囲が写っています。画面左上には三ツ星を含むオリオン座の南半分、画面中央から左の輝星はシリウスで、おおいぬ座は横倒しです。画面中心から斜め右上の輝星はカノープス、画面右上は大マゼラン雲です。画面中央の僅かに右側の赤い領域がガム星雲です。

こうして見ると冬の銀河でも多くの暗黒星雲領域があることが分かります。日本ですとシリウスの横辺りのそれはこれほど明瞭には写りにくいかと思いません。ガム星雲ですが、オリオンのバーナードループに比べはつきりしません。想像していたより写りにくいものだと実感しました。H α ナローバンドパストフィルターで撮影した画像をコンポジットするなどの対策が必要でしょう。

しかし慌てて撮影するとミスがつきもので、画面右端の銀河中にはエータカーリーナ星雲が写っていますが、左端にはバラ星雲が切れて写っています。わずかにカメラを左にふれば両星雲が写っていたものの・・・と後悔しています。

また、画面下端少し右寄りの薄緑色のカブリ部分は宿泊先モーターの部屋からの漏光によるものです。当地の観測・撮影の問題点はコレです。

【本頁写真】2024年10月2日 撮影地：オーストラリア QLD ジョージタウン
Nikon D810A f=20mm F4 ISO3200 90秒×6

【表紙写真】2024年10月2日 撮影地：オーストラリア QLD ジョージタウン
Nikon D810A f=180mm F4 ISO3200 90秒×40 本項写真で分かる周辺の淡い星雲部分まで写すにはf=135mm位のレンズが適当かと思われます。

【訂正】会報798号表紙写真のタイトルでの星名、正しくはカノープスです。

日月星の伝承を訪ねて (83)

横山好廣

津久井の月待塔 ⑥

引き続き大型の月待塔のレポートをしたい。一体、大型の定義はと問われれば、それはない。筆者の調査時の実感であって、言わば主観である。それは月待塔の立っている状況、塔身の厚みや形状、台石の大きさなどに左右される。結果的には、塔高 120 cm以上の月待塔に大きいという印象を抱く傾向があったことをご承知おきください。

(3)調査地 相模原市緑区佐野川 1212 鎌沢地区・熊野神社入口傍 (旧藤野町)

調査年月日 2024(令和6)年9月26日

形状 自然板石 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面 「◎廿三夜」 * ◎は菩提心の意か?
右側面 「文政十二年政五午歳三月廿三 … 以下覆土埋没 (1829)」
左側面 「佐野川中村 / 念佛女講中」

法量 塔身 131×74×33

台石 25×105×不明(覆土) * 斜面に建ち覆土多い。

本碑は陣馬街道から脇に入った鎌沢地区中村に所在し、神奈川県最北の月待塔になる。北は東京都西多摩郡檜原村、東は陣馬街道・和田峠を經由して東京都八王子市上恩方町に至る。また、付近一帯は藤野の特産品、佐野川茶の産地である。

斜面に単独でスラリと立つ姿は気品があり、孤高を持する。ただ、写真からも判るように塔身の左上と右側面の欠損は惜しまれる。

施主に「念佛女講中」とあり、廿三夜待で念仏が唱えられていたことや主婦の信仰活動が盛んであったことを物語っている。



(4)調査地 相模原市緑区若柳 869 下阿津地区 (旧相模湖町)

調査年月日 2024(令和6)年4月19日

形状 自然板石(子持岩) 文字塔

名称 二十三夜塔

銘文 正面「廿三夜」

背面「明治七戌年 / 三月吉日(1874)」 * 施主不明

法量 塔身 151×81×15

台石 19.5×114×52



明治に入ってから二十三夜塔は少なく貴重。どっしりと安定感がある。

近隣の方の話によると、二十三夜待は絶えているようで、今は此処が、正月のどんど焼きの会場になっているようだ。そのためか、二十三夜待とどんど焼きを付合させて話す節があった。

子持岩は石老山麓に産出する凝灰質礫岩で、多くの小さな礫を含んでいる。この礫を子どもに見立て、子宝を祈願する信仰に由来する名称であろう。岩に霊力を感じる、所謂日本古来の石信仰に由来すると考える。

なお、子持岩の二十三夜塔は総じて大きく、旧相模湖町内郷地区に6基集中する。その岩質は脆いが、旧相模湖町では道祖神や名号塔などにも使われている。

江戸時代に庶民が建てた石塔の大きさを考えるときの参考に、三通りの御条目を紹介したい。①小鍋島村(平塚市)の元禄11年(1658)の五人組改帳では念仏、題目、庚申塚、大きな石塔を立てることを禁じられている。②享保10年(1725)の五人組帳前書のひな形には、新たな寺社の建立、石塔・石仏の造立を一切禁止の意向が示されている。③寛政10年(1798)の4寺院法度や寛政11年の江戸市中法度では、石塔等の丈けが三尺(約90cm)まで認められている。

以上から、大きな石塔の制限は抽象的であったが、後には三尺以下と具体的に示されたことや大小を問わず石塔の造立が禁じられることもあったことが分かる。これらは為政者による意図的な規制・制約であった。しかし、大きな石塔が数多く遺っている事実は、庶民の信仰エネルギーはそれらを乗り越える強靱さがあったことを示す。(参考・松村雄介『神奈川の石仏』有隣堂 1987、石井良助校訂『徳川禁令考 前集第五』創文社 1981) <つづく>

天象

相原 榮

4月

水星: 明け方の東天、後半は観望好期 +3.3~-0.1等 うお→くじら座
金星: 明けの東天で高度を上げる -4.2~-4.8等 うお座
火星: 夕方南中、夜半過ぎに沈む +0.4~-0.9等 ふたご→かに座
木星: 夕方の西天、夜半前に沈む -2.1~-2.0等 おうし座
土星: 明け方の東天低空 +1.2等 みずがめ→うお座

4日 21h49m 清明
5日 11h15m 半月(上弦)
6日 宵の西天で月と火星・ポルックスが集合
13日 09h22m 満月
20日 04h56m 穀雨

21日 10h36m 半月(下弦)
22日 23h 4月こと座流星群が極大の頃(条件良)
25日 明け方の東天で月・金星・土星が集合
26日 明け方の東天で月と水星が接近
28日 04h31m 新月

5月

水星: 明け方の東天で高度を下げる +0.1~-2.4等 うお→おひつじ→おうし座
金星: 明けの東天で高度を上げる、後半は観望好期 -4.7~-4.4等 うお座
火星: 夜半に沈む +0.9~+1.2等 かに→しし座
木星: 夕方の西天、宵に沈む -2.0~-1.9等 おうし座
土星: 明け方の東天低空に昇る +1.2~+1.1等 うお座

4日 22h52m 半月(上弦)
宵の空で月と火星・プレセペ星団が集合
5日 14h57m 立夏
6日 12h みずがめ座η流星群が極大の頃
13日 01h56m 満月
20日 20h59m 半月(下弦)

21日 03h55m 小満
23日 未明の東天で月と土星が接近
24日 未明の東天で月と金星・土星が接近
27日 12h02m 新月
31日 宵の西天でプレセペ星団の近くを月が通過

6月

水星: 夕の西北西天で高度アップ、後半観望好期 -2.4~+0.3等 おうし→ふたご→かに座
金星: 明け方の東天で高度を上げる、観望好期 -4.4~-4.2等 うお→おひつじ座
火星: 夜半前に沈む +1.3~+1.4等 しし座
木星: 太陽方向で観望困難 -1.9等 おうし→ふたご座
土星: 夜半過ぎの東天に昇る +1.1~+1.0等 うお座

1日 宵の西天で月と火星が大接近
3日 12h41m 半月(上弦)
5日 18h57m 芒種
11日 16h44m 満月
19日 04h19m 半月(下弦)
未明の東南東天で月と土星・海王星が集合

21日 11h42m 夏至
25日 19h32m 新月
27日 宵の西南西天で月と水星が接近
20h 6月うしかい座流星群が極大の頃
30日 宵の空で月と火星が接近